

2023 年度事業報告

2023 年度は、世界的にはコロナ禍からの脱却による経済の回復と格差拡大、国際的な分断の深刻化に象徴されるように、不安定な状況が続いています。また、社会活動のさまざまな面において ICT やデジタル、そして AI が大きな役割を担っていることが鮮明になってきました。

KDDI 財団では、この状況下において、新型コロナウイルス感染症の影響で 2020 年度以来、滞っていた国際協力プロジェクトが概ね完了を迎えることができ、またすべての事業が対面を中心とした活動に戻るなど、2023 年度は遅れの取り戻し、および新規案件の開拓など、SDGs の達成に向けて、国内外の課題解決に向けた支援・協力を精力的に取り組みました。

I 組織と運営状況

1. 組織

(1) 役員・評議員

役員は 10 名 [資料 1：役員名簿]、評議員は 10 名 [資料 2：評議員名簿] です。

(2) 審査委員

審査委員は 13 名 [資料 3：審査委員名簿] です。

(3) 会議の開催状況

理事会を 4 回、評議員会を 1 回、審査委員会を 3 回、それぞれ開催しました。
[資料 4：会議の開催状況]

II 事業活動

1. 公益目的事業

(1) 助成事業

(ア) 調査研究助成

ICT が拓く豊かな未来社会をテーマとし、技術、産業、まちづくり、医療、制度・法律、経済、社会、文化など、広範な分野において、ICT の普及・発展、グローバル化、また ICT を利活用し社会的課題の解決に貢献する調査・研究を助成する『調査研究助成』は、公募により 38 件の申請を受け付け、12 件について合計 3,564 万円の助成を実施しました。

審査にあたっては、「社会的課題の明確さ」、「具体的な創造価値」、「新規分野の開拓」、「グローバル研究」などに重点を置きました。

[資料 5：調査研究助成]

(イ) 社会的・文化的諸活動助成

ICT を通じて社会、教育、環境などの課題解決や地域社会の国際化の促進に貢献する各種の非営利団体（NPO）・非政府組織（NGO）の活動、ならびに開発途上国における教育、文化、生活支援などの活動に対する『社会的・文化的諸活動助成』は、公募により 11 件の申請を受け付け、3 件について合計 300 万円の助成を実施しました。

審査にあたっては、「ICT を通しての社会貢献度」「青少年の啓発へのインパクト」「国際的貢献度」に重点を置きました。

[資料 6：社会的・文化的諸活動助成]

(ウ) 目的型助成

SDGs 促進の視点に立ち、日本国内におけるデジタルデバイドの解消に貢献する研究および活動を助成する目的型助成は、公募により 6 件の申請を受け付け、『目的型調査研究助成』として 1 件、『目的型諸活動助成』として 2 件を採択し、合計 3 件、900 万円の助成を実施しました。

審査にあたっては、いずれの助成も「課題解消による社会的貢献」や「課題解決策」などに重点を置きました。

[資料 7：目的型助成]

(エ) 国際会議開催助成

ICT の普及・発展に寄与する国際会議を支援する『国際会議開催助成』は、公募により 6 件の申請を受け付け、6 件について合計 300 万円の助成を実施しました。

審査にあたっては、「ICT 普及・発展への寄与度」、「研究分野・社会への影響度」「先端性」などに重点を置きました。

[資料 8：国際会議開催助成]

(オ) 留学生助成

① 外国人留学生助成

海外から日本に留学中で、国内外の情報通信の普及・発展、グローバル化に貢献する研究を行う外国人大学院生を対象とし、指定校から推薦された 32 名の候補者から 14 名（理系 11 名、文系 3 名）を選考し、合計 1,500 万円の助成を実施しました。

② 日本人留学生助成

日本から海外に留学する者で、法律、経済、社会、文化、技術の各分野において国際的視野に立ち、社会に貢献するテーマで研究を行っている大学院生を

対象とし、指定校から推薦された 10 名の候補者から 4 名を選考し、合計 2,400 万円の助成を実施しました。

③ 語学留学助成

将来、東南アジア諸国の発展と日本との国際交流に貢献することを目指し、ビルマ語、モンゴル語、カンボジア語の習得および現地文化の理解を深めるため、当該国に留学する日本人大学生、大学院生を対象とし、指定校から推薦された 1 名の候補者から 1 名を選考し、合計 55 万円の助成を実施しました。

[資料 9：留学生助成]

(カ) 著書出版・海外学会等参加助成

情報通信の未来を展望する学術誌“Nextcom”と連携した『著書出版助成』、および海外で開催される学会等の参加者への『海外学会等参加助成』は、Nextcom 監修委員会での選考を踏まえ、『著書出版助成』については 2 件 400 万円、『海外学会等参加助成』については 4 件 150 万円の助成を実施しました。

[資料 10：海外学会等参加助成]

(キ) 青少年啓発・育成活動助成

① 科学実験教室

情報通信の振興の視点から、青少年の科学技術への好奇心醸成と啓発を目的に開催される「科学実験教室」への助成を全国の大学に対して実施しました。

2023 年度は、コロナ禍により開催を見送っていた東北大学、名古屋大学が再開したほか、宇都宮大学を新たに追加し、北海道大学、慶應義塾大学、香川大学、広島市立大学、九州大学の 8 大学で開催、合計約 1,000 名の方に参加いただき、合計 871 万円の助成を実施しました。

② 中高生への即興型英語ディベートの普及

全国の中高生を対象とした即興型英語ディベートの普及活動を通じて、グローバル人材の育成に貢献する PDA（一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会）に対して、地理的障壁を取り除き、多様な人々との交流を目的とした遠隔ディベートシステム構築に対する支援として、合計 200 万円の助成を実施しました。

(2) 表彰事業

公募による募集・審査の結果、『KDDI Foundation Award』は、19 件の応募があり、本賞 2 件 400 万円、業績賞 2 件 計 200 万円、貢献賞 2 件 100 万円、合計 700 万円を贈呈しました。

[資料 11：KDDI Foundation Award 本賞・業績賞・貢献賞]

(3) 国際協力事業

(ア) 開発途上国の人材育成

① 技術研修の実施

開発途上国における情報通信の改善・拡充を担う人材育成のために、APT（アジア・太平洋電気通信共同体）の計画に基づき、2024年1月に「サイバーセキュリティ技術研修～サイバー攻撃の脅威と対策～」を東京にて開催し、11カ国から12名が受講しました。

[資料12：開発途上国の人材育成に資する技術研修の実施状況]

② 国際会議への参加

ITU-D（国際電気通信連合開発部門）およびAPTの国際会議において、ICT活用事例紹介やICTプロジェクト成果報告を行い、開発途上国を支援しました。

(イ) 開発途上国のデジタルデバイド解消支援

① ラオスでは、新たに通信ネットワーク品質改善の調査研究を実施しました。通信政策や事業者の品質改善施策を調査し、また基地局マッピングシステムを試作しました。加えてラオス技術通信省に対してインターネット技術研修を継続実施しました。

② ベトナムでは、障がい児学校とも連携して調査研究を実施し、AIを活用した手話学習システムについてプロトタイプを制作しました。

③ モンゴルでは、FMラジオ放送による緊急警報放送システム(EWBS：Emergency Warning Broadcast System)を使用した避難演習を実施し、実用化に向けて検証を行うとともに、児童向けに「防災かるた」を使用したワークショップを開催し、防災教育の充実を図りました。

④ ネパールでは、ルーラルエリアのネットワークを構築し、医療・教育・行政アプリにより過疎地のデジタルイゼーションを図り利便性を向上しました。また、現地で活動するNPOとともに、ICTを利用した地域医療を支援する取組みを進めました。

⑤ ミクロネシア連邦では、コミュニティネットワークおよび遠隔周産期医療の調査研究を継続しています。

⑥ 日本の学校教育課程における情報教育の取組みをアジア・太平洋各国に紹介するパブリケーション活動として、情報教育の先進国であるシンガポールの事例も盛り込み、英語と日本語で冊子を発行しました。

[資料13：開発途上国におけるデジタルデバイド解消プロジェクトの実施状況]

(ウ) 開発途上国における教育・文化・生活支援

① 開発途上国における教育文化支援を目的とした「チャリティーコンサートク

ラシック 2024」を開催しました。

- ② カンボジアでは、KDDI スクール（13 校）を継続して運営しているほか、子どもたちに「自由な発想で表現する喜び」を知ってほしいという思いから設立された「小さな美術スクール」に対して継続支援しています。また、カンボジアの伝統芸能である大型影絵芝居「スバエク・トム」上演を続けているティー・チアン一座に対し支援を継続しました。
- ③ ミャンマーでは、恵まれない環境に置かれた子どもたちに美術、音楽、英語、コンピュータの学習機会を提供する New Zero Art Village School（ペイネーコン村）の教育プログラムに賛同し、継続支援しました。
- ④ ネパールでは、誰一人取り残さない教育を目指し、視聴覚障がいのある生徒向けデジタル教材を新たに 5 校へ導入しました。ICT 教育プロジェクトでは、ルーラルエリアの学校 6 校への導入を完了しました。また、論理的思考を育むための「楽しみながら学ぶロボットプログラミング教育」の継続実施の一環として、ロボット競技会をラリトプール市と協力して開催しました。
- ⑤ 国際協力活動を幅広く展開する NPO に対し、通信インフラ運用（ウェブサイト運用）の支援を継続実施しました。

（4）ICT 普及事業

（ア）モバイルシステム/IoT システム技術検定試験対策講習会

「MCPC モバイルシステム技術検定対策講習会」の 1 級・2 級コース、および「MCPC IoT システム技術検定対策講習会」の基礎・中級コースを春期および秋期に開催しました。

[資料 14：MCPC モバイルシステム/IoT システム技術検定試験対策講習会の実施状況]

（イ）国際コミュニケーション・フォーラムの開催

公益財団法人情報通信学会との共催により、国際コミュニケーション・フォーラムを、春季は「日本の情報通信政策及びメディア・コンテンツ政策」をテーマとして、秋季は「NTT 法 見直しの行方－国際競争の渦中へ」をテーマとして開催しました。

（ウ）『衛星通信年報』の編纂と発行

衛星通信に関する我が国の政策、事業活動、国際機関の活動など、国内外の動きをまとめ、令和 5 年版を 2 月 29 日に発行しました。

(エ) デジタル・シティズンシップ教育の実施

国内におけるデジタル・シティズンシップ（以下、「DC」と略）の啓発を目的として、次の取組みを実施しました。

- ① 日本デジタル・シティズンシップ教育研究会との共催で、主に中・高等学校の教員を対象とし、指導者の資質向上と児童への質の高い DC 教育の機会創出を目的に、8月に四国中央市、9月に札幌市、11月に広島市においてハイブリッド型講習会を、1月には DC 啓発動画を制作し、オンラインセミナーを実施しました。
- ② 一般社団法人ソーシャルメディア研究会との共催で、スマホへの依存度が高まっている小中高校生を対象として、SNSをはじめとするソーシャルメディアを安心安全かつ積極的に活用することを目的に、2023年度は「闇バイト」をテーマとした DC 教育教材用の動画を制作しました。2022年度に制作した「フェイクニュース」動画教材も合わせて活用し、授業や啓発イベントを行いました。（7月：世田谷区立深沢中学校、10月：兵庫県立姫路東高等学校、11月：江東区立辰巳小学校、12月：尼崎市立園田中学校、10月および12月：スマホサミット in ひょうご）

(オ) 広報誌（機関誌）の編纂と頒布

2024年版財団広報誌『KDDI FOUNDATION Vol.15』を1,700部発行し、大学などの教育機関、研究機関、財団関係者、最近の助成対象者を中心に配布しました。

2. 収益事業

2008年から継続提供してきた IPSTAR 社向け技術コンサルティングは、2023年12月末で契約満了となりました。

III 事業報告の附属明細書

2023年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成していません。

以 上

役員名簿

(敬称略、理事は五十音順、◎印は常勤)

(2024年3月31日現在)

財団役職	氏名	所属・職位
理事長	阿野 茂浩	KDDI株式会社 次世代自動化開発本部 シニア イルクター
専務理事◎	花原 克年	公益財団法人 KDDI 財団
理事	江崎 浩	東京大学大学院情報理工学系研究科 教授 デジタル庁 シニア エキスパート(アーキテクチャ)(非常勤)
理事	大橋 弘	東京大学 副学長、東京大学公共政策大学院 教授 東京大学大学院経済学研究科 教授
理事	門脇 誠	KDDI株式会社 執行役員 経営戦略本部長
理事	関根 千佳	株式会社ユーディット 会長兼シニアフェロー 同志社大学 客員教授
理事	長谷山 美紀	北海道大学 副学長、大学院情報科学研究院長・教授
理事	山内 弘隆	武蔵野大学経営学部 特任教授 一橋大学 名誉教授
理事	脇濱 紀子	京都産業大学現代社会学部 教授
監事	松永 幸廣	松永公認会計士事務所 公認会計士 CPA mc21 監査法人 代表社員 公認会計士

評 議 員 名 簿

(敬称略・五十音順)

(2024 年 3 月 31 日現在)

氏 名	所属・職位
内海 善雄	元国際電気通信連合 事務総局長
金子 郁容	慶應義塾大学 名誉教授
姜 尚中	東京大学 名誉教授、熊本県立劇場 理事長兼館長 鎮西学院 学院長
児玉 圭司	日本放送協会 特別主幹
菅谷 実	慶應義塾大学 名誉教授
田中 孝司	KDDI 株式会社 代表取締役会長
辻 正次	神戸国際大学 学長、大阪大学 名誉教授 兵庫県立大学 名誉教授
土井 美和子	国立研究開発法人情報通信研究機構 監事 奈良先端科学技術大学院大学 理事、東北大学 理事
日比野 隆司	株式会社大和証券グループ本社 取締役会長兼執行役 大和証券株式会社 取締役会長
保坂 雅樹	西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 パートナー 経営会議議長 弁護士

審査委員名簿
(敬称略・委員は五十音順)

(2024年3月31日現在)

氏名	所属・職位	専門分野
委員長 森川 博之	東京大学大学院工学系研究科 教授	情報ネットワーク
委員 伊藤 由希子	津田塾大学総合政策学部総合政策学科 教授	医療経済学、国際経済学
加藤 寧	東北大学大学院情報科学研究科 研究科長 教授	情報通信ネットワーク
眞田 幸俊	慶應義塾大学理工学部電気情報工学科 教授	移動体通信システム
穴戸 常寿	東京大学大学院法学政治学研究科 教授	憲法、情報法
高田 潤一	東京工業大学環境・社会理工学院 教授	電波伝搬・電波応用計測
釣谷 剛宏	株式会社 KDDI 総合研究所 執行役員	
戸川 望	早稲田大学大学院基幹理工学研究科 教授	集積システム設計、量子 計算、情報セキュリティ
中小路 久美代	公立はこだて未来大学システム情報科学部 情報アーキテクチャ学科 教授	ヒューマンコンピュー タインタラクション (HCI)
中村 彰宏	中央大学経済学部 教授	公共経済学
林 秀弥	名古屋大学大学院法学研究科 教授 同アジア共創教育研究機構 教授	経済法
村上 陽亮	株式会社 KDDI 総合研究所 執行役員	
湧口 清隆	相模女子大学人間社会学部社会マネジメント 学科 教授	情報通信の経済政策

会議の開催状況

1. 理事会

回数	開催年月日	議題・報告事項
第 45 回	2023.5.25	(議題) 1. 2022 年度事業報告 2. 2022 年度決算報告 3. 特定費用準備資金の積立期間の変更 4. 第 20 回評議員会の招集および提出議題
第 46 回	2023.6.12	(議題) 1. 専務理事の選定
第 47 回	2023.9.26	(議題) 1. 2023 年度 KDDI Foundation Award の候補者(案) (報告) 1. 職務執行状況の報告
第 48 回	2024.3.11	(議題) 1. 2024 年度事業計画(案) 2. 2024 年度収支予算(案) 3. 2024 年度助成の対象(案) (報告) 1. 職務執行状況の報告(2023.9-2024.3)

2. 評議員会

回数	開催年月日	議題・報告事項
第 20 回	2023.6.9	(議題) 1. 2022 年度決算報告 2. 役員を選任 (報告) 1. 2022 年度事業報告 2. 特定費用準備資金の積立期間の変更 3. 2023 年度事業計画及び収支予算 4. 審査委員の委嘱

3. 審査委員会

開催年月日	議題
2023.4.5	2023 年度 KDDI Foundation Award 第一次選考
2023.9.5	1. 2023 年度 KDDI Foundation Award 本審査 2. 2024 年度助成プログラム審査要項説明
2023.12.26	1. 2024 年度助成プログラム審査 2. 助成プログラムにおける課題検討

調査研究助成

代表研究者	研究テーマ	助成期間	助成額 (千円)
香川 璃奈 筑波大学 医学医療系 講師	誤診を減らすナッジ的診断支援 システム	2024/4/1 ~ 2027/3/31 3年	3,000
高瀬 裕也 室蘭工業大学大学院 工学研究科 もの創造系領域 准教授	ICT による RC 建物の構造モニタ リング	2024/4/1~ 2027/3/31 3年	3,000
丸田 一輝 東京理科大学 工学部電気工学科 准教授	大容量水中音響通信技術に関 する研究	2024/4/1~ 2026/3/31 2年	3,000
三科 健 大阪大学大学院 工学研究科 准教授	光固有値を用いた光伝送路モニ タリング	2024/4/1~ 2027/3/31 3年	3,000
溝口 泉 電気通信大学 情報理工学研究科情報学専攻 助教	スマートフォン単体での食感拡張 手法の開発	2024/4/1~ 2026/3/31 2年	2,997
榎堀 優 名古屋大学 情報学研究科 講師	伝統工芸の感性価値共有基盤 の構築	2024/4/1~ 2027/3/31 3年	2,996
岸本 早苗 京都大学大学院 医学研究科 健康医学系専攻 健康増進・行動学分野 客員研究員	体外受精中の働く女性への遠隔 心理介入	2024/4/1~ 2027/3/31 3年	3,000
山中 稔 香川大学 創造工学部創造工学科 建築・都市環境コース 教授	文化財城郭石垣の変位計測シ ステムの開発	2024/4/1~ 2026/3/31 2年	2,860
河合 伸悟 東京情報デザイン専門職大学 情報デザイン学部 教授	DCI 型と従来型ネットワーク間の 競争分析	2024/4/1~ 2027/3/31 3年	2,998

高橋 麻奈 神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科 専任講師	ニウエにおける司法へのアクセス	2024/4/1～ 2027/3/31 3年	2,791
福井 昌則 岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 准教授	教員の ICT と探究学習に関する 国際調査	2024/4/1～ 2027/3/31 3年	3,000
浅田 なつみ 東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター 研究員	歴史的建造物のデジタル 3 次元 計測	2024/4/1～ 2027/3/31 3年	2,998
合計		12 件	35,640

資料 6

社会的・文化的諸活動助成

団体名	活動の名称	活動期間	活動場所	助成額 (千円)
NPO 法人リビング・ オール・トゥギャザー	カンボジアにおけるインターネット を活用した教材作成と教育手 法の研修・普及事業	2024/4/1～ 2025/4/30	カンボジア	1,000
東北工業大学	モンsoonアジア途上国における 洪水防災教育プロジェクト	2024/4/1～ 2025/6/30	フィリピン マニラ	1,000
NPO 法人ゴーシエ	フィリピンの離島貧困村における ICT ラーニングセンター教育プロ ジェクト	2024/4/1～ 2025/6/30	フィリピン ビサ地 ボホール州 パンダノン島	1,000
合計			3 件	3,000

目的型助成

① 目的型調査研助成

代表研究者	研究テーマ	助成期間	助成額 (千円)
鈴木 貴久 津田塾大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授	継続的な高齢者のデジタルスキル向上	2024/4/1～ 2027/3/31 3年	3,000
合計		1件	3,000

② 目的型諸活動助成

団体名	活動の名称	活動期間	活動場所	助成金額 (千円)
NPO 法人けいはんな アバターチャレンジ	けいはんなアバターチャレンジにおける参照アバターの設計・製作・教育指導	2024/4/1～ 2026/3/31 2年	京都府	3,000
一般社団法人 ICT リハビリテーション研究会	3D プリント自助具のデジタルプラットフォーム利用の教育促進活動	2024/4/1～ 2027/3/31 3年	東京都、宮城県、愛知県など	3,000
合計			2件	6,000

国際会議開催助成

申請団体	主催団体	会議の名称	開催期間 開催場所	助成額 (千円)
COMPSAC 2024 実行委員会	IEEE Computer Society	2024 IEEE 第48回 コンピュータソフトウェアとその応用に関する年次会議 2024 IEEE 48th Annual Computers, Software, and Application	2024/7/1～ 2024/7/4 大阪市	500

2024 年環境電磁工学国際シンポジウム組織委員会	電子情報通信学会通信ソサイエティ、IEEE EMC Society	2024 IEEE Joint International Symposium on Electromagnetic Compatibility, Signal & Power Integrity	2024/5/20～ 2024/5/24 沖縄県宜野湾市	500
ITC-CSCC 2024 組織委員会	電子情報通信学会 (IEICE)、韓国の大韓電子工学会(IEIE)、タイの ECTI	第 39 回 回路とシステム, コンピュータと通信に関する国際会議 ITC-CSCC 2024	2024/7/2～ 2024/7/5 沖縄県恩納村	500
情報理論とその応用国際シンポジウム実行委員会	情報理論とその応用国際シンポジウム実行委員会、電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ、電子情報通信学会 情報理論とその応用サブソサイエティ	2024 年 情報理論とその応用国際シンポジウム 2024 International Symposium on Information Theory and its Applications	2024/11/10～ 2024/11/13 中華民国（台湾）・台北市	500
CogInfoCom 2024 実行委員会	CogInfoCom 2024 実行委員会	第 15 回 認知情報通信国際会議 15 th IEEE International Conference on Cognitive Infocommunications (CogInfoCom 2024)	2024/9/7～ 2024/9/9 八王子市	500
FLOPS 2024 実行委員会	日本ソフトウェア科学会プログラミング論研究会	The 17 th International Symposium on Functional and Logic Programming	2024/5/15～ 2024/5/17 熊本市	500
合計			6 件	3,000

留学生助成

① 外国人留学生助成

対象者	研究テーマ	国籍	助成月数	助成額 (千円/年)
KHOMENKO NATALIIA ホメンコ ナタリア 筑波大学大学院 博士 3 年	村上春樹の小説における女性像	ウクライナ	12	1,200
SALIM STEPHANIE YULIA サリム ステファニー ユリア 北陸先端科学技術大学院 大学 修士 1 年	Duolingo Integration with Conventional English Classroom in Japan	インドネシア	12	1,200
EMILY WONG YANN PYNG エミリー オン ヤン ペイン 京都大学大学院 修士 1 年	マレーシアにおける華人ペンテコステ教会	マレーシア	12	1,200
ACHMAD SYARIF HIDAYAT アーマド シャリフ ヒダヤ 名古屋大学大学院 博士 1 年	大面積ペロブスカイト太陽電池応用に向けた拡張性のある単層カーボンナノチューブ電極	インドネシア	12	1,200
HNIN LAI LAI AYE ニン レイ レイ イェー 千葉大学大学院 博士 2 年	Investigation of mid-infrared thermal radiation resonating longitudinal optical phonon energy from metal /semiconductor micro stripe structures	ミャンマー	6	600
ABDULLAH BIN JASNI アブドゥラ ビン ジャスニ 長岡技術科学大学大学院 修士 1 年	Diffusion Model を用いたパケットレベルの敵対的通信トラフィック生成	マレーシア	12	1,200

YASWITHA GUJJU ヤスウィタ グッジ 東京大学大学院 博士 1 年	Quantum machine learning with a focus on Variational quantum algorithms and kernel techniques.	インド	12	1,200
LEOW YAU HONG レアウ ヤウー ホング 東京農工大学大学院 修士 2 年	周波数利用率向上のための動的周波数共用についての研究	マレーシア	12	1,200
KANDAMBIGE THISARA LAKSHAN SATHSARA カンダンビギ ティサラ ラクシャン サッサラ 筑波大学大学院 博士 3 年	Assessing the high-resolution Land use and Land cover on numerical model representation of Colombo's thermal environment during heat waves	スリランカ	12	1,200
FEBRI ABDULLAH フェブリ アブドラ 立命館大学大学院 博士 2 年	Game AI, procedural content generation, serious games, large language models	インドネシア	12	1,200
SHAHAB RANA MUHAMMAD シャハブ ラナ ムハマド 豊橋技術科学大学大学院 修士 1 年	異方性構造を有するプロトン伝導性フィラーの作製と次世代燃料電池への応用	パキスタン	12	1,200
REISA RAHMATU DEWI レイサ ラハマトウ デウィ 長岡技術科学大学大学院 修士 1 年	Study of Motor Imagery Training with Neurofeedback in Virtual Reality	インドネシア	12	1,200
KAORE JOSEPH BAKI カオレ ジョセフ バキ 新潟大学大学院 博士 2 年	Study on Evaluation and Device Application of Plasmonic Nanostructured Organic Materials	パプアニューギニア	6	600

NABILA IRTIFA ALAM ナビラ アーティファ アラム 北海道大学大学院 博士 2 年	Assessing the effects of disturbances on coastal forest ecosystem services using remote sensing technology	バングラデシュ	6	600
合計			14 件	15,000

② 日本人留学生助成

申請者	研究テーマ	留学先	助成月数	助成額 (千円)
北川 梨津 早稲田大学大学院 経済学研究科 博士 2 年	人事経済学の理論および実証研究	米国	24	6,000
井原 圭一 筑波大学大学院 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 情報理工学位プログラム 修士 2 年	2D 指導動画から AR 被指導体験の自動生成	カナダ	24	6,000
平崎 雄太 東京大学大学院 工学系研究科物理工学専攻 修士 1 年	超伝導量子系の揺らぎダイナミクスの探究	米国	24	6,000
大畑 翔平 京都大学大学院 工学研究科社会基盤工学専攻 修士 2 年	非構造格子を用いた全球極端水位評価	米国	24	6,000
合計			4 件	24,000

③ 語学留学助成

対象者	留学先大学名 専攻	習得語学	留学期間	助成額 (千円)
金原 成海 大阪大学 外国語学部 外国語学科 モンゴル語専攻 学部 3 年	モンゴル国立大学 Mongolian language program	モンゴル語	2024/9/1～ 2025/8/31	550
合計			1 件	550

著書出版・海外学会等参加助成

① 著書出版助成

執筆者	出版物	出版時期	助成額 (千円)
山本 龍彦 慶応義塾大学大学院 法学研究科 教授	デジタル空間の統治者： 国家とデジタルプラットフォームの関係	2024/10/31	2,000
小西 葉子 高知大学 教育研究部 助教	現代の諜報・捜査と憲法 －自由と安全の日独比較研究	2025/4/30	2,000
合計		2 件	4,000

② 海外学会等参加助成

参加者	学会名	開催時期 開催国	助成額 (千円)
佐藤 信吾 大妻女子大学 社会情報学部 専任講師	The International Association for Media and History (IAMHIST2023)	2023/6/20～22 カナダ	400
河又 貴洋 長崎県立大学 国際社会学部 准教授	ITS European Conference 2023 (International Telecommunication Society)	2023/6/19～20 スペイン	400
石橋 真帆 東京大学大学院 学際情報学府 博士後期課程	The 2023 Society for Risk Analysis Annual Meeting	2023/12/10～14 米国	378
Ornicha Boonpanya 早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 博士課程	Sustainability in the Digital Transformation	2023/11/16～17 デンマーク	323
合計		4 件	1,501

KDDI Foundation Award 本賞

受賞者	所属・役職	業績	副賞 (千円)
大関 真之	東北大学大学院 情報科学研究科 情報基礎科学専攻 教授	量子コンピューティング理論の展開と社会実装	2,000
生貝 直人	一橋大学大学院 法学研究科 ビジネスロー専攻 教授	情報社会のルール形成に関わる国際比較研究	2,000
合計		2 件	4,000

KDDI Foundation Award 業績賞

受賞者	所属・役職	業績	副賞 (千円)
石橋 功至	電気通信大学 先端ワイヤレス・コミュニ ケーション研究センター 教授	ユーザセントリックな通信を実現する新たな 無線アクセスネットワーク技術に関する研究	1,000
園生 智弘	株式会社 TXP Medical 代表取締役医師	救急搬送・救急医療システムによる医療適 正化、データの可視化と研究データベース 構築に関する貢献	1,000
合計		2 件	2,000

KDDI Foundation Award 貢献賞

受賞者	所属・役職	業績	副賞 (千円)
吉田 悠一	国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授	大規模データを扱うアルゴリズムの数理的 研究	500
音無 知展	京都大学大学院 法学研究科 准教授	憲法上の情報プライバシー権に関する理解 の転換	500
合計		2 件	1,000

海外研修業務の実施状況

契約先	コース名	研修方法	参加国/人数	期間
APT	サイバーセキュリティ技術	集合形式	11 カ国、12 名	2024.1.17～1.26

開発途上国におけるデジタルデバイド解消プロジェクトの実施状況

実施国	概要	
ラオス	件名	ネットワーク品質改善の調査研究
	実施期間	2023 年 3 月～2024 年 4 月
	メンバー	ラオス主管庁(通信技術省通信規制庁)、KDDI、KDDI 財団
	実施概要	現地技術通信省によるネットワーク品質改善の調査研究のため、通信政策や事業者の品質改善施策を調査し、また基地局マッピングシステムを試作
ベトナム	件名	AI による手話学習システム開発研究
	実施期間	2023 年 3 月～2024 年 4 月
	メンバー	PTIT(郵政電信工芸学院)、ベトナム情報通信省、地方政府(タイグエン州)、タイグエン大学、KDDI 財団
	実施概要	AI を活用した手話学習システムについてプロトタイプ制作し調査研究を実施
モンゴル	件名	FM 緊急警報放送システム(EWBS)や ROF(Radio Over Fiber)を利用したパイロットプロジェクト
	実施期間	2022 年 3 月～2024 年 3 月
	メンバー	モンゴル主管庁(通信情報技術庁)、国家非常事態庁、モンゴル国営放送、JTEC、KDDI 財団
	実施概要	FM ラジオ放送による緊急警報放送システム(EWBS: Emergency Warning Broadcast System)の実用化に向けてルーラルエリアでの検証
ネパール	件名	スマートネットワーク技術を活用した地方行政サービスの展開
	実施期間	2020 年 1 月～2024 年 4 月
	メンバー	ICT4D(現地 NGO)、ネパール主管庁(情報通信技術省、ネパール通信局)、ダル地方自治体、NICT(情報通信研究機構)、Global Plan Inc.、OCC、KDDI 財団
	実施概要	ルーラルエリアでネットワークを構築し、医療・教育・行政アプリによる過疎地でのデジタルライゼーションを実証

ミクロネシア連邦	件名	ミクロネシア連邦での光ファイバー網構築と遠隔医療サービス改善のための調査研究
	実施期間	2022年3月～2024年4月
	メンバー	ミクロネシア連邦運輸情報インフラ省、保健省、地域医師、BHN テレコム支援協議会、香川大学、メロディーインターナショナル、KDDI 財団
	実施概要	コミュニティネットワークおよび遠隔周産期医療の調査研究の継続
フィリピン他	件名	日本の高等学校における情報教育の変革
	実施期間	2022年1月～2024年3月
	メンバー	中央大学、静岡大学、明治大学、マルチメディア振興センター
	実施概要	日本の高等学校教育課程における情報教育の取組みをアジア・太平洋各国に紹介する出版物の発行

資料 14

MCPC モバイルシステム/IoT システム技術検定試験対策講習会の実施状況

種別	コース名	参加人数 (延べ数)	実施日	
春 期	モバイルシステム技術検定 1 級 試験対策講習会	17 科目・名	2023.5.20～5.21 5.27	
	モバイルシステム技術検定 2 級 試験対策講習会	19 名	2023.5.13～5.14	
	IoT システム技術検定試験 (基礎) 対策講習会	8 名	2023.6.3	
	IoT システム技術検定 (中級) 試験対策講習会	3 名	2023.4.22～4.23	
	個別	IoT システム技術検定試験 (基礎) 対策講習会	20 名	2023.5.17～5.18
		IoT システム技術検定試験 (中級) 対策講習会	8 名	2023.4.19～4.20
秋 期	モバイルシステム技術検定 1 級 試験対策講習会	15 科目・名	2023.11.25、12.2 12.3	
	モバイルシステム技術検定 2 級 試験対策講習会	38 名	2023.10.28～ 10.29	
	IoT システム技術検定試験 (基礎) 対策講習会	3 名	2023.11.11	

		IoTシステム技術検定 (中級) 試験対策講習会	6名	2023.10.14~ 10.15
	個別	IoTシステム技術検定試験 (中級) 対策講習会	17名	2023.10.11~ 10.12

以上